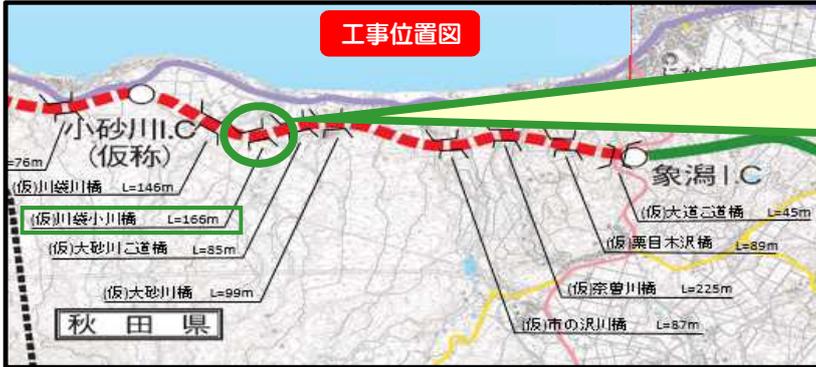


# ゆざきさかた 遊佐象潟通信

発行：本荘地区監督官室  
 問合せ：TEL 0184-23-4081  
 令和5年8月1日  
 【第23号】



【工事名】  
 川袋小川橋上部工工事  
 【施工】  
 オリエンタル白石(株) 東北支店  
 【工事場所】  
 にかほ市象潟町  
 川袋～大砂川 地内

川袋小川橋上部工工事は遊佐象潟道路 小砂川IC(仮)～象潟ICの小砂川IC(仮)に近い位置での工事です。工事内容は、川袋川(にかほ市管理、鮭の遡上で有名)の支流である川袋小川を渡河する“川袋小川橋(仮)のコンクリートの橋桁を架ける工事”です。橋の長さ166m(10tダンプトラックを縦列に22台分)の中心部から左右に伸ばす“張出し架設工法”で施工していきます。

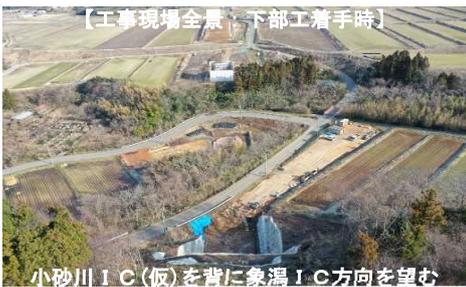
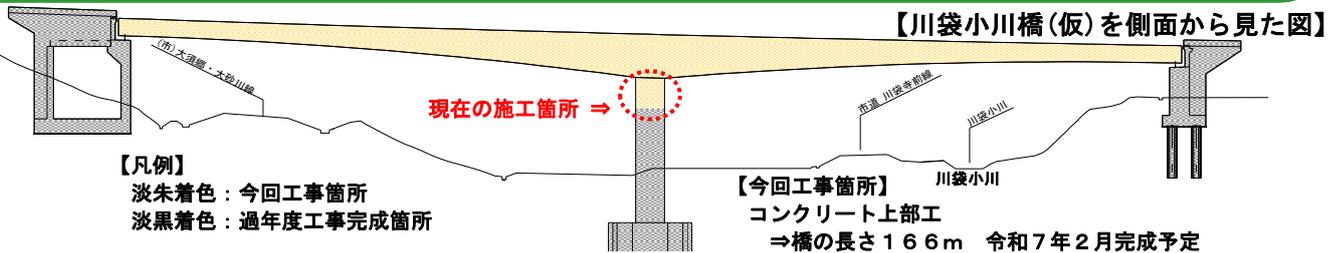
今後も、川袋小川を汚すことなく、皆様のご理解・ご協力を得ながら無事故で工事を進めていきます。

【用語の説明】

○張出し架設工法⇒下部工(橋脚等)から左右に橋体(橋桁)を伸ばしていく架設工法です。一般的には3～4mを1ブロックとして張出していきます。桁下(橋の下)空間の制約が少ないため、山間部や河川を渡河する橋で採用されることが多いです。この工法はディッカーホフ&ウィドマン(Dyckerhoff & Widmann AG)というドイツにあった建設会社が開発した工法で“ディビダーク工法”とも呼ばれています。



【張出し架設工法事例】



## 工事担当者へインタビュー ～“熱盛”の工事現場 vol.2～

【インタビューを受けていただいた方】

オリエンタル白石(株) 佐藤 忍さん(今回工事の監理技術者)

※監理技術者とは、工事において“施工計画・工程・品質等の技術的管理及び工事従事者への指導監督”する立場の人(簡単にいうと“親方”です)

①現場に携わった経験年数は？監理技術者としての経験年数は？

現場経験年数は25年、監理技術者としては21年です

②初めて現場担当した橋は？入社何年目？難儀したところは？

秋田県発注の工事で旧ニツ井町(現在の能代市ニツ井町)の町道橋及び水道橋(橋長16m、コンクリート桁)です。入社3年目で、初めて現場代理人を任されました。1工事で2橋分の工程管理に苦労しました。

※現場代理人とは“現場に常駐し、その運営・取締まりの他、一部分を除き工事に関する全権限を持つ立場の人(簡単にいうと“社長”です)

③今回工事の勝負所(時期・施工内容等)は？

強風が予想される冬期間において、張出し施工時の工程を如何にして守れるかが勝負所です。

④1日の仕事が終わった時に思うことは？

誰も怪我無く仕事を終えられたことに感謝し、明日も現場管理に努めようと思います。



インタビューを受けていただきありがとうございました。次は貴方の現場で“熱盛”！！！！ to be continued・・・